



この先は……

社団法人 宮城県歯科医師会
常務理事 佐藤 敏明

圧倒的多数の信任を得て、政権与党が交代した。約1ヶ月が過ぎマスコミの大騒ぎも一段落した今日この頃、不信と不安が言われるなか、次々と新しい施策が発表されている。果たして日本国にはどんな未来が待っているのでしょうか。楽しみでもあり、心配でもある。そして、何よりも医療政策は、特に歯科医療政策はどうなるのでしょうか。

ここ1年ほどの間に、歯科界の現況をマスコミが興味本位の取り上げかたで取り上げている、「大変だ、大変だ SOSだ」と、とても残念な気持ちになる。他の業種でも大変なのは同じではないだろうか。医学部定員増をはじめとして、政府は数々の医療対策を決めているが、歯科の窮状改善策と比べるとその格差は益々大きくなっているようである。将来不透明で魅力に欠ける業界に若い人材は、ソッポを向く 当然であろう。

数年来、危惧されていた歯学部受験生の減少、大学の定員割れ、衛生士学校、技工士学校の閉鎖など、歯科界の根本の一つである人材に関して、現実問題として我々業界を苦しめ始めている。つまり量の問題だけではなく、資質低下の問題がもっと大きくクローズアップされて来るのである。自らが招いたものか、その予兆に対して無関心であったのか、予兆を感じても対策を考える能力に不足があったのか、それとも為す術のない、とてつもない大きな力に翻弄されたのか、どちらにしても、大変マズイ状況である。

2年ほど前の朝日新聞社説に「長期と短期の複眼で…」未来の世に残すもの……」というのがありました。話は京都清水寺の「清水の舞台」です。この清水の舞台は直径1mの柱150本で支えています。柱の寿命はあと400年だそうです。それに備えて寺では植林を始めています。かなり長期を見据えた話です。また日本は少子高齢化が進み50年後には総人口が9千万弱、100年後には、その半分にとか・・・、はたして清水の舞台建替の頃はどうなっているか。平均寿命が伸び、少子高齢化の加速は我々業界にとってはどうなのか、将来に負担、不安を残さないためにも、歯科界の人材についても現在そして未来を考えての植林が、必要となっている。

今、私たちは何をすべきなのでしょう？、ヒューレックス代表取締役の松橋隆広氏が河北新報に寄せていた記事に「人間力」を持った人材について述べています。日常の仕事を通して、まれにとても優秀だと感じられ、思われる方がいらっしゃる、この人は将来会社、業界で頭角を現してリードしていくに違いない、こうゆう人には自然に周囲から人が集まり、自分の味方してくれる。

こんな人が「人間力」を持った人材です。この様な人には良い情報や知りたい情報が集まるので、仕事がうまく行きます。そして人が集まれば自然とリーダーとしての資質も備わって来ます。将来を担う人材になりえるのです。松橋氏は、その「人間力」を磨くに最も重要なことは「仕事」であると述べております。人間は仕事を通して成長します、ただ仕事をするのではなく、意義を考え、モラルと人間性を大事に持って仕事をし、仕事を好きになることです。一生懸命働くことで、人間の魅力にあふれた人材になるのです。

確かにこの様な心構えで日々の仕事に向かえば、患者さんを含め周りの同業者からもしっかりと評価を得られるでしょう。勿論、一朝一夕で成せるものではありません。確かに新しい技術で、手早く大きな報酬を手にもすることも可能ですが、目の前の甘い水や新しいものにばかりに走らず、勉強と反省を繰り返し、基礎をしっかり確実に磐石のものに築き上げれば、今まで見過ごして来た診療のなかにも、まだまだ大きな光を見出せるものが沢山あります。将来に不安を感じている若い歯科医、学生に「明るい未来はまだまだあるぞ」と知らしめることこそが、私たちに課された使命ではないでしょうか。今まで以上に、仕事に誇りと自信そして誠意を持って取り組みましょう。人間力の高い人が数多く出現しリードして行くことを期待したいと思います。

